



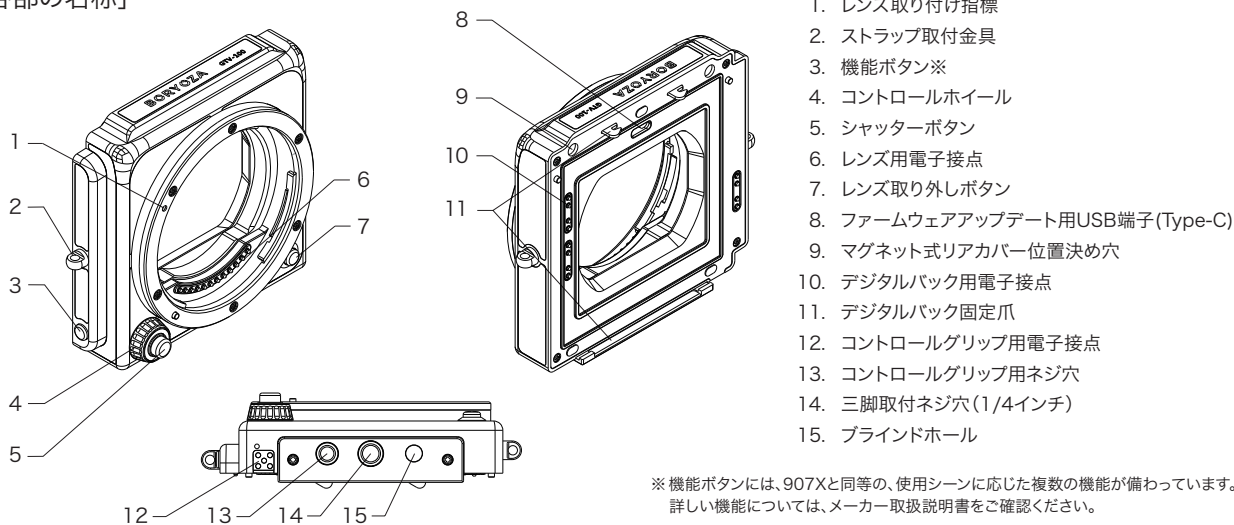
↑最新の取扱説明書

このたびはマウントアダプターをお求めいただき、まことにありがとうございます。本製品を安全にお取り扱い頂くため、ご使用前に取扱説明書をよくお読みになりご使用ください。また、この説明書はお読みになった後、いつでもご覧になれるよう大切に保管して下さい。

GTV-100

本製品は、富士フィルムGマウントレンズを、ハッセルブラッドCFVデジタルバックシリーズで使用可能にする電子カメラモジュールです。ハッセルブラッドのVシステムに富士フィルムGFレンズの豊富なラインナップを組み合わせることで、レンズの選択肢を大きく広げ、より多彩な撮影スタイルに対応します。CFV 100Cでは位相差AF(PDAF)に対応。さらに、対応するGFレンズではレンズ内手ブレ補正機構を使用できるため、1億画素級センサーで気になりやすい手ブレを抑え、高精細な描写をより安定して引き出すことができます。

【各部の名称】



【特徴】

- 富士フィルムGマウントレンズをハッセルブラッドCFVデジタルバックに装着可能
- レンズ内の手ブレ補正機構に対応。ブレを抑え、撮影時の安定感を高めます
- GFレンズのAF/MF撮影に対応
- CFV 100Cでは位相差オートフォーカス (PDAF) に対応
- 絞り自動制御、顔検出機能に対応
- ハッセルブラッドの純正コントロールグリップに対応
- GFレンズ情報を自動認識し、EXIF情報へ記録可能
- USB-CケーブルでPCと接続し、ファームウェアアップデートが可能

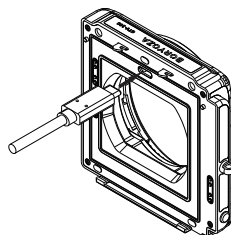
【ご使用になる前の注意点】

- ・ 本アダプターは電子シャッターのみ対応します。使用前に電子シャッターをONにしてください。
- ・ GFレンズからの絞り操作は非対応です。カメラ本体や専用コントロールグリップから絞りを設定してください。
- ・ 絞り操作をするときは、GFレンズの絞りリングを「A」もしくは「C」の位置に合わせて設定してください。

【ファームウェア更新について】

操作性向上のため、ファームウェアは随時更新されます。ファームウェアアップデートの方法および更新内容については、株式会社焦点工房のサポートページ (www.stkb.co.jp/support.html) でご確認ください。

※USBケーブルは付属しておりません。データ通信用のUSBケーブルを別途ご用意ください。



【着脱方法】

① デジタルバックの取付

GTV-100のマグネット式背面保護カバーを取り外します(図1)。

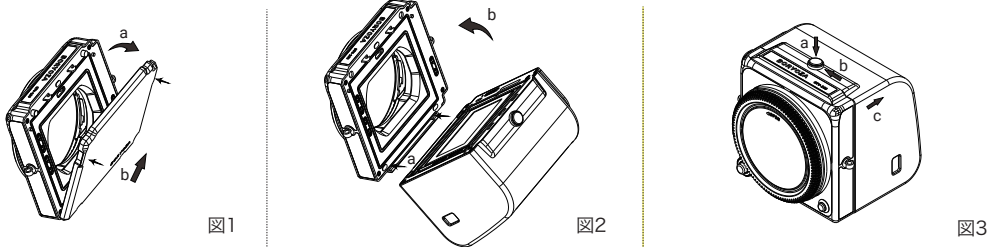
次に、GTV-100下部の固定爪をデジタルバック底部のスロットに掛け、その後デジタルバック上部の固定爪装着口に向かってGTV-100上部の固定爪を合わせます。軽く押し込んで「カチッ」という音がするまで装着してください(図2)。

不意な脱落を防ぐため、手を離す前に、正しく固定されていることを必ず確認してください。

② デジタルバックの取り外し

ロックボタンを押してスライドさせ、GTV-100上部の爪をデジタルバック上部の固定爪装着口から解除します(図3)。

デジタルバック上部を軽く引いて分離し、その後下部の固定爪を外してください。着脱時はセンサーを傷つけないよう十分ご注意ください。



【レンズの着脱】

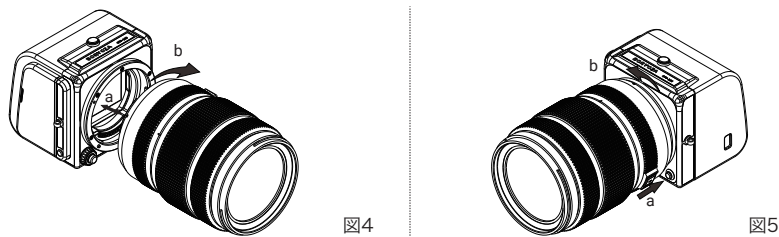
① レンズの取付

GTV-100のフロントキャップを取り外します。レンズの取り付け指標とGTV-100側のレンズ取り付け指標を合わせ、レンズをGTV-100のマウント部に差し込みます。その後、「カチッ」という音がするまで回して固定してください(図4)。

不意な脱落を防ぐため、手を離す前に、レンズが正しく固定されていることを必ず再確認してください。

② レンズの取り外し

レンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを回します(図5)。レンズとGTV-100の取り付け指標の位置が合ったら、レンズを軽く引き抜いてください。



【グリップの着脱】

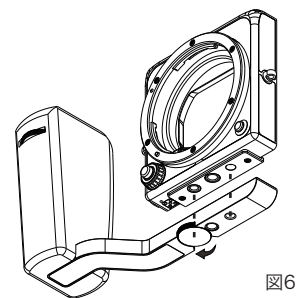
① グリップの取付

コントロールグリップのロックピンおよびロックネジを、GTV-100のブラインドホールとコントロールグリップ用ネジ穴に合わせます。

グリップをGTV-100底面に密着させた状態で、ロックネジを締め付けて固定してください(図6)。

② グリップの取り外し

ロックネジを反対方向に回して緩め、ネジが完全にGTV-100から外れたら、グリップを取り外してください。



使用上のご注意 ⚠

- ・ 使用中の不意な脱落を防ぐため、デジタルバックおよびレンズをGTV-100へ装着する際は、必ず正しく奥まで装着し、ロック機構が確実に固定されていることをご確認ください。
- ・ レンズおよびデジタルバックの着脱は、必ずデジタルバックの電源を切った状態で行ってください。通電中に接点が触れると、デジタルバックやレンズが損傷するおそれがあります。
- ・ 製品を手を持つ際や装着する際は、レンズ側およびデジタルバック側の電気接点に直接手を触れないようにしてください。静電気により内部回路が損傷するおそれがあります。
- ・ 本製品を水に浸したり、水をかけたりしないでください。製品故障の原因となります。
- ・ 本製品を分解しないでください。分解すると、製品機能が失われるおそれがあります。
- ・ 本製品を落下させたり、強い衝撃を与えたりしないでください。外部からの強い衝撃により故障するおそれがあります。
- ・ 本体の清掃・メンテナンスを行う際に有機溶剤を使用しないでください。有機溶剤により、外装材が変形するおそれがあります。